

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		畑地帯総合整備事業						予算事業名		畑地帯総合整備事業費			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	土地改良法				
			06	01	07	2001	経常経費						
総合計画体系	3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)							事業の区分	主要事業				
	3-1元気あふれる農業の振興(農業)												
	③農村環境の保全							担当課係等	耕地課				
	3農業生産基盤の整備								土地改良係				
事業期間		継続 (平成28年度～令和 7年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
武井地区において、霞ヶ浦農業用水を導入し、畑地を主体とした基盤整備を実施し、農地の集団化や農道整備を行うことにより、農作業の効率化や生産性の向上を図るとともに、担い手農家の育成を図る。							武井地区の畑地については区画形状が悪く、道路が狭いうえ、排水も良くないことから、総合的なほ場整備の機運が高まってきたため。なお、近隣の江川新宿地区においても、同様の事業によって、ほ場が整備された。						
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】						
県営事業として実施する農地の区画整理、農道整備、用排水整備等の総合的整備に対し、事業費の一部を負担する。							受益者及び受益地(武井地区)						
							【事業をとりまく環境の変化】 平成28年度に武井地区県営畑地帯総合整備事業推進協議会を設立し、準備を進めてきたが、平成31年2月に県より施工計画が承認され、事業が本格的に開始された。						
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】					
換地原案作成 1期地区：区画整理工 埋蔵文化財調査				1期地区：区画整理工 農道工 2期地区：実施設計				1期地区：区画整理工 農道工 農業用排水施設工 2期地区：区画整理工					

■事業費

		H30年度	R01年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	11,200			
	その他	0	0			
	一般財源	1,250	1,300			
歳入計(千円)		1,250	12,500			
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	19 負担金補助及び交付金	1,250	12,500			
歳出計(千円)(A)		1,250	12,500			
伸び率(%)			900.00			
備考	総合計画 9 7 ページ 予算書 1 2 2 ページ					

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	換地委員会の開催	回	目標	3.00	8.00	5.00
	総会・役員会		実績	3.00	0.00	0.00
	本同意取得のための地元説明会の開催	回	目標	4.00	0.00	0.00
			実績	4.00	0.00	0.00
成果 指標	換地原案の作成	作成数	目標	0.00	1.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
	事業化のための本同意の取得率	%	目標	100.00	0.00	0.00
			実績	97.20	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	武井地区の畑地は区画形状が悪く道路も狭いため、将来に向けて、農作業の効率化と生産性の向上を図るためには、大規模なほ場整備を行い、担い手農家を育成していかなければならない。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	実施主体は県であるが、地元でも推進協議会を設立し、地元の意向を集約し、県や市と連携を図りながら、事業のスムーズな進捗に努めている。
	手段の妥当性	A 妥当である	天候に左右されない安定した農業経営を行うために、霞ヶ浦農業用水を導入するほか、ほ場の大規模化や農道や排水路の整備を行うことは、一般的に行われている方法である。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	県営事業として実施しているが、地元との連絡調整や会議などに、多くの時間が費やされている。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	農道や水路の整備にあたっては、区域内の受益者が、一定の割合で、無償で農地を提供（減歩）して行っている。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	平成31年2月に事業計画が承認されたことにより、予算執行が可能となり、事業が本格的に開始された。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	予定通り、平成30年度には事業採択を受け、概ね、計画どおりに事業が進捗している。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
今後、本格的に工事等に着手することになるが、多額の事業費を要するため、毎年の事業費を確保していくとともに、地元の財政的負担を軽減していく必要がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
県や地元との調整を図り、担い手農家への農地の集積率を上げることによって、地元への集積促進費助成の割合を高めて、地元の財政的負担を軽減していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☒ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 事業採択を受け、今後、本格的に事業を進めることになるが、工事中は農作物の作付けができないため、県や地元の推進協議会と連携を図りながら、早期完了を目指していく。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。	